

学生活動の効率的な運営とマネジメント

前田 隼輝¹⁾ 亀井 克一郎²⁾

1) 徳島大学大学院創成科学研究科

2) 徳島大学高等教育研究センター

1. はじめに

これは徳島大学ロケットプロジェクトのこれまでの活動を例にとり、活動の内容からそれぞれのメリットやデメリットについて記述している。それらについて、今後行われる学生活動や教育活動に生かすことができるようまとめたものである。また、こういった環境での活動が学生自身の成長につながっているかについても挙げている。

2. 地域貢献活動

2. 1. 水ロケット教室

水ロケット教室は最も長く行っている活動で、当初は学内で実施をしていたが現在はあすたむらんど徳島で行っている。目的としてはモノづくりを通して、徳島の小学生に宇宙に興味を持ってもらうことである。一方で学生はイベント運営を通して、プロジェクトマネジメントの方法や計画の設定などを実際に行える貴重な機会である。こうした機会を増やすことは、普段団体の運営などを行っていない学生に対してもそのような機会を創出することができ、その経験が団体の運営にも還元されるものであるといえる。

2. 2. 科学体験フェスティバル

これは主に感染症拡大後に参加を始めたもので、オンラインがベースになっている。対面での活動となると対象が県内に限られがちではあるが、対象が拡大されるということはメリットである。一方で、動画の内容のクオリティを上げることに限界があることや、視聴者が取り組んだ後のフィードバックなどは行えず、また意見などを吸い上げることも難しい状況にあり、回数を重ねることが得策ではない。学生側では、動画を制作す

る人員のみで十分であり、学生としての成長が見込める部分も限られている。

2. 3. 高校生との交流

兵庫県立洲本高校と行っているもので、学内で大学生と高校生の間で技術交流や意見交換などを行う機会があった。高校生にとって大学生とフラットに話すことのできる場は限られており、ロケットの活動に限らない双方向のコミュニケーションをとることができていた。また大学生側には、普段自分たちが取り組んでいることを高校生にわかりやすく伝えるための準備過程で、自分たちの技術などの理解をより深めることにつながっていた。またこの時交流をした学生の中から大学入試を経て、徳島大学の学生として参加している学生もおり、入試広報にも一定の成果を示している。

2. 4. 和歌山県串本町との関係

和歌山県串本町では、日本初の民間ロケット射場が計画されており、宇宙開発を通じたまちづくりが行われている。当団体では感染症拡大前に、串本町を訪問し今後の展望などに意見交換を行い地元の小中学生を対象とした地域貢献活動を実施に向けて計画を行っていた。しかし感染症拡大の影響により実行には至っていない。そのなかでも町役場との関係は継続しており、現地でのイベントなどに招待などをいただいている。今後時期が許せば、より関係性を強固なものにしていくことは非常に有益なことである。また、計画中の民間射場などとも連携を図ることができれば、徳島から宇宙携わる仕事に就く人材も増やすことができる。

3. 資金調達・スポンサー協力

3. 1. スポンサーシップ協力

スポンサーシップについては、2019年度から募集を始め県内企業8社より協力を得ている。資金協力もさることながら、学内の設備では限界のある加工や、資材の提供、技術的なアドバイスなどを得ることができる。また、実際に社会の現場で活躍している方々の意見を耳に入れることは学生にとって非常に有意義な経験となる。この協力形態は知名度向上には寄与度合いが小さいが、学生の必要としている支援が直接的に得ることができるので、効率的かつ高レベルの支援を受けることが可能であり、モノづくりを行う学生団体には効果的な形態である。また、メディア報道後のスポンサー募集では効果が非常に高く募集時期のタイミングも重要な要素となる。

3. 2. クラウドファンディング

クラウドファンディングは2016年度に実施している。結果として資金も集まり自団体の目標達成につながった実績がある。一方クラウドファンディングの特徴としてある返礼品や活動報告などの準備・作成に時間を取られ本来のモノづくり活動に割く時間が失われてしまったことも事実として存在する。一方で県内外問わず、広く一般の方々に対しての広報につながるという利点もあり、スポンサーと合わせてどちらを選択すべきタイミングなのかを慎重に検討する必要がある。

4. メディアとの関係性

ロケットプロジェクトはこれまでに何度もメディア等に取り上げられている。このような学生活動は近年多様化し、メディアには取り上げられやすい内容であることも事実である。一般向けのメディアでは広く広報が行えることは自明であるので、専門紙について取り上げる。工業系の専門紙は複数存在し、かつ読者はその分野に長けているまたは興味のある人がほとんどである。そういった専門紙への掲載は、技術協力などの機会を探れるほか、学生が職業選択を行う際のアピール材料になることが多く、そういった実績もいくつ

か存在している。

5. 他大学との交流

5. 1. 共同実験

ロケットプロジェクトでは1年に2回他大学と合同での打上実験を行っている。共同実験期間中は他大学と打上げスケジュールを調整しながら、自団体の打上げを行う。実験期間中のほとんどは自分たちのための活動ではなく、他大学の機体の打上げを行うためのサポートをする時間となる。そういった状況下でいかにマネジメントをして自らの団体を動かすことができるのかは、日ごろの活動でのマネジメントが顕著に表れる点でもある。また実験に参加している団体のマネジメントや動きからも学ぶことは多くあり、自団体の立ち位置を客観的に評価することができるいい機会になる。

5. 2. ワークショップ

ワークショップは毎年全国の大学が参加して行われる技術交流会であり、共同実験ではかかわることのない大学や、ロケットに限らない人工衛星などの学生団体との交流も行える重要な機会として技術的な意見交換を行う場として非常に有益である。またマネジメント面での問題など学生団体特有の問題への意見交換も重要である。しかし参加人数が限られることから、参加者が非参加者に対していかに共有できるか非常に重要な点である。

6. 結言

学生団体の活動において重要なことは成果ではなく、取り組んだ過程で起こる物事に対してどう対処し乗り越えるか、成長できるかが重要であり、学生団体をマネジメントする者は在籍する学生の各々の特徴をつかみどういった活動が個人個人の成長に効率的につながるができるのかを吟味しながら方法や手段を吟味し、社会との接点・立ち位置・意義を常に意識しながら団体のマネジメントを行う必要がある。